

1. ご挨拶

『共立女子大学博物館年報／紀要』 発刊のご挨拶

明治19年(1886)の創立以来、すでに130年余の歴史を積み重ねている共立女子学園には、長年にわたって収集されてきた日本と西洋の服飾品やその他の工芸品、美術品が多数収蔵されています。これらは長らく学生のための教育資料として、また教員の研究資料として幅広く活用されてきましたが、他館への貸し出しなどを通じて、本学コレクションの存在が社会に認知されるとともに、その全面的な公開が望まれていました。

こうした状況のもとで、平成28年10月、学園の創立130周年を記念して新2号館が建設されたのを機に、その地階に共立女子大学博物館が新設されました。

博物館の収蔵品の中心をなすのは、日本の服飾・染織資料であり、帯を含む江戸時代から昭和時代初期にかけての女性の小袖・着物類は、質量ともに全国的なレベルにあるものといえます。

また公家・武家・庶民の男性服飾、大名家伝来の婚礼調度類や室町・桃山時代の漆工品も充実しています。さらに、アイヌや琉球などの民族服飾のほか、大正・昭和時代初期の本学教員・生徒による刺繍作品なども、研究上非常に重要な作品群です。

収蔵品には、これら日本の作品以外に、ヴェネチアで活躍したデザイナー、マリアノ・フォルチュニーがデザインしたドレスを中心とする、近世・近代ヨーロッパの服飾類や、版画、アール・ヌーボーのガラス器、アメリカン・キルトなど、西洋美術の多様な作品も含まれています。

共立女子大学博物館は、「和と洋が会う博物館」として、所蔵するこうした文化財を常設展示するとともに、企画展の開催や、講演会・ワークショップなどの関連事業を通して、皆様に和と洋の文化の歴史と美に触れていただいています。

これらの活動に加え、開館2年目の今年度からは、本学所蔵の文化財、及びこれに関連する作品や様式に関する歴史的研究、また文化財の保存・修復に関する研究など、広範な側面からの研究成果を発表する場として、『共立女子大学博物館年報／紀要』を刊行することとなりました。

今後、本誌が博物館における展示活動・社会教育活動と連動して、社会に大きな貢献ができるよう努力していきたいと考えています。

共立女子大学博物館長
長崎 巖

2. 沿革

平成 27 (2015) 年	4 月 1 日	博物館プロジェクト設置
平成 28 (2016) 年	10 月 1 日	開館
	10 月 8 日	開館記念展開会式・特別内覧会
平成 29 (2017) 年	7 月 31 日	博物館相当施設指定

3. 入館者数

2016～2017年度入館者実績

展覧会名	学外			小計	学内			小計	合計	会期 (日数)
	一般	学生	卒業生		教職員	大学生	中高生			
三百年がはぐくんだ服飾美 －江戸女性のきもの－	600	132	280	1,012	138	366	25	529	1,541	2016. 10. 10～ 2016. 12. 2 (43日)
吉祥を呼ぶ 展	331	29	68	428	72	148	2	222	650	2016. 12. 9～ 2017. 2. 10 (43日)
共立女子大学コレクション・1	279	44	79	402	107	241	3	351	753	2017. 3. 7～ 2017. 5. 15 (47日)
ジャパン・ブルー －青に囲まれた衣生活－	609	60	178	847	81	334	6	421	1,268	2017. 6. 19～ 2017. 7. 31 (39日)
共立女子大学コレクション・2	294	28	73	395	79	240	1	320	715	2017. 10. 2～ 2017. 11. 22 (36日)
刺繍の美 －共立職業学校の輝き－	377	22	72	471	82	149	1	232	703	2017. 12. 12～ 2018. 2. 9 (38日)
合 計	2,490	315	750	3,555	559	1,478	38	2,075	5,630	開館日数計 (246日)

単位:人

4. 展示関連

開館記念展

1. 三百年がはぐくんだ服飾美 -江戸女性のきもの-

<企画展>

平成 28 (2016) 年 10 月 10 日 (月) ~ 12 月 2 日 (金) 43 日間 入館者数: 1,541 名

【概要】

徳川幕府が天下を統治した江戸時代は、身分格差のある時代ではありましたが、服飾における自由さは男女で大きな違いがみられました。厳格な身分制度が確立されたこの時代、「表」(official/formal)の世界にいる男性にあつては、衣服によって身分を表示させる目的で、身分による服装の固定化が行われ、衣服の自由な選択は許されていませんでした。そのため、男性の衣服には様式の変遷や流行現象はほとんど見られませんでした。

これに対し、「奥」(private/casual)の世界にいた女性は、社会秩序を乱さない限り、衣服の選択には暗黙のうちに比較的自由が許されていました。それゆえ、経済的な余裕がある女性は、公家・武家・町人といった身分にかかわらず、服装に多様な選択肢を持つことができたのです。それが結果として、江戸時代の女性の小袖に、時代による様式変遷と、身分・階層の違いによる美的方向性の多様さを生み出すことになりました。

共立女子大学博物館の開館記念展である本展覧会では、本学収蔵品の中核をなす江戸時代の着物や帯、大名調度類などから特に名品を選び、江戸時代女性たちの華麗なる装いの世界を再現しました。

【開会式・特別内覧会】

日時: 10月8日(土)

- ・開会式: 14:00 ~
- ・内覧会: 開会式終了後 ~ 16:00

来場者: 85名



【関連事業】

・記念講演会

「かくも美しききものたち

-江戸時代の華麗なファッション-

講師: 長崎 巖 (共立女子大学博物館長)

日時: 10月22日(土) 14:00 ~ 15:30

来場者: 60名

・ギャラリートーク

講師: 古川 咲 (当館学芸員)

日時: 10月12日(水) 15:00 ~

11月16日(水) 15:00 ~



ポスターデザイン：太田 早紀
(家政学部 建築・デザイン学科デザインコース)



展示関連



10月22日(土) 記念講演会



記念講演会 質疑応答

2. 吉祥を呼ぶ 展

<企画展>

平成 28 (2016) 年 12 月 9 日 (金) ~ 平成 29 (2017) 2 月 10 日 (金) 43 日間 入館者数 : 650 名

【概要】

吉祥模様とは、「おめでたいこと」を求め、喜び、そのことを知らしめる模様のことをいいます。そもそも「吉祥」という言葉は、「よいきざし」「めでたいしるし」という意味であり、吉祥模様は、この概念を視覚化したものです。

「松竹梅」「鶴亀」「鳳凰」「熨斗」など、吉祥模様とされるものは数多く存在します。古来より、人々の生活を支える工芸品にはこれら吉祥模様が広く使われてきました。特に身を包み守る衣服には、吉祥性が重視されてきました。

子どもの健やかな成長を願う産着や、新生活の幸せを祈る婚礼衣裳などがそれにあたります。施される模様には長寿、子孫繁栄、成長祈願、夫婦円満といった、人々のさまざまな願いが込められていました。

本展覧会では、このような模様に込められた祈りや幸せの願いを作品とともに紹介しました。

【関連事業】

・講演会

「めでたさ満載 -宴のうつわ-」

講師：荒川 正明 氏 (学習院大学教授)

日時：1 月 21 日 (土) 14 : 00 ~ 15 : 30

来場者：33 名

・ギャラリートーク

講師：古川 咲 (当館学芸員)

日時：12 月 21 日 (水) 15 : 00 ~

1 月 18 日 (水) 15 : 00 ~



ポスターデザイン：猿谷 佳奈

(家政学部 建築・デザイン学科デザインコース)



1 月 21 日 (土) 講演会

3. 和と洋が会う博物館

共立女子大学コレクション・1

<コレクション展>

平成 29 (2017) 年 3 月 7 日 (火) ~ 5 月 15 日 (月) 47 日間 入館者数 : 753 名

【概要】

明治 19 (1886) 年の創立以来、すでに 130 年の歴史を重ねている共立女子学園には、長年にわたって収集されてきた日本と西洋の服飾品や工芸品、美術品が多数収蔵されています。

本学博物館では、ある 1 つのテーマを設けて展示を行う「企画展」と、本展のように本学の収蔵品を紹介する「コレクション展」の 2 種類の展示を交互に行っています。

今回、第 1 回目の「コレクション展」として、マリアノ・フォルチュニーのドレスをはじめとした本学所蔵のドレスと着物の主要コレクションに併せて、ガラスや漆工芸品も展示しました。



ポスターデザイン：不嶋 紗希

(家政学部 建築・デザイン学科デザインコース)



展示風景

4. ジャパン・ブルー – 青に囲まれた衣生活 –

<企画展>

平成 29 (2017) 年 6 月 19 日 (月) ~ 7 月 31 日 (月) 39 日間 入館者数: 1,268 名

【概要】

「SAMURAI BLUE (サムライ・ブルー)」がサッカー日本代表の公式の愛称となっているように、青は、古代以来、日本人が長らく愛してきた色のひとつです。

明治時代の初め、二度にわたって来日し、東京開成学校と東京大学理学部で、分析化学、応用化学、農学などを教えたイギリスの化学者ロバート・ウィリアム・アトキンソン (Robert William Atkinson 1850 - 1929) は、日本に藍染の衣類が多いことに驚いて、それらに見られる色を「Japan Blue (ジャパン・ブルー)」と呼びました。

本展覧会は、まさにその世界を再現しようとするもので、江戸時代の素襖、袴、鬘斗目などの武家装束、江戸時代から明治時代以降の庶民の仕事着や浴衣など、様々な「青」色に染められた衣服を展示し、「ジャパン・ブルー」の多様な美の世界をお楽しみいただきました。

【関連事業】

・講演会

「ジャパン・ブルー – 生活を支え、生活を彩った色 –」

講師：長崎 巖 (共立女子大学博物館長)

日時：7月1日 (土) 14:00 ~ 15:30

来場者：40名

・ギャラリートーク

講師：古川 咲 (当館学芸員)

日時：7月4日 (火) 12:30 ~

7月20日 (木) 12:30 ~



ポスターデザイン：豊田 明日香

(家政学部 建築・デザイン学科デザインコース)



7月1日 (土) 講演会

5. 和と洋が会う博物館

共立女子大学コレクション・2

<コレクション展>

平成 29 (2017) 年 10 月 2 日 (月) ~ 11 月 22 日 (水) 36 日間 入館者数 : 715 名

【概要】

本展は、本学の主要なコレクションである和（着物）と洋（ドレス）の作品をご紹介します。展覧会です。

「和」は、明治時代から大正、昭和時代にかけての着物や帯を半衿、櫛・簪・笄といった装飾品と併せて展示しました。

「洋」は、20 世紀初頭、イタリア・ヴェネチアで活躍したスペイン人、マリアノ・フォルチュニー (Mariano Fortuny 1871-1949) がデザインしたドレスをご紹介します。このドレスは、上質の薄い絹地に独特の方法で加工を施してできた、さざ波のように流れるプリーツが特徴です。このプリーツは今日の技術でも再現は不可能と言われているうえに、およそ 100 年たった今も崩れることなく、その美しさを保っています。

当館はフォルチュニーのドレスを多数収蔵していることでも知られており、学外の研究者からも多くの問い合わせを受けています。

本展では、フォルチュニーが活躍した時代の日本の着物も併せて展示し、当館の特色ともいえる「和」と「洋」が出会う「美」の世界をお楽しみいただきました。



ポスターデザイン：不嶋 紗希

(家政学部 建築・デザイン学科デザインコース)

展示関連



展示風景

6. 刺繍の美 - 共立女子職業学校の輝き -

<企画展>

平成 29 (2017) 年 12 月 12 日 (火) ~ 平成 30 (2018) 年 2 月 9 日 (金) 38 日間 入館者数 : 703 名

【概要】

本学は、明治 19 (1886) 年「共立女子職業学校」として、本郷区東竹町の渡邊辰五郎（現・東京家政大学の創設者）の裁縫私塾の一隅からスタートしました。女性の自立と社会的地位の向上をめざし、裁縫・編物・刺繍・造花等の高度な技術を修得する「術科」が置かれ、生徒たちが職業人として立てるよう教育がなされました。ことに明治時代は、万国博覧会などにおいて日本の刺繍が称賛を得ていた時代でした。本学においても、海外でも通用する作品を作るための教育が実践され、明治 22 (1889) 年のパリ万博への参加を最初に、その後も国内外の博覧会にも積極的に生徒作品を出品し、賞牌を得たという歴史をもっています。

残念ながら、創立時からの作品は大正 12 (1923) 年の関東大震災で消失しましたが、その後、大正 14 (1925) 年から第二次世界大戦が始まる昭和 16 (1941) 年までに制作された作品および教育資料は、幸いにも戦火を逃れ、大切に保管されてきました。また、現在では学園に関わる貴重な資料類とともに、本学の教育の歴史を辿ることのできる作品の収集・保管が行われています。

本展覧会では、共立女子職業学校時代以来、本学の女子教育の一端を担ってきた刺繍の諸作品のほか、これまで収集されてきた伝統的な刺繍コレクションも併せて展示しました。本学の歴史を語るとともに、美術品として高い水準を誇る素晴らしい作品の数々をご覧ください。

【関連事業】

・ 講演会

「明治・大正時代の女子教育における刺繍」

講師：中川 麻子 氏（大妻女子大学准教授）

日時：12月16日（土）14：00～15：30

来場者：34名



12月16日（土）講演会



ポスターデザイン：山崎 結希

(家政学部 建築・デザイン学科デザインコース)

【関連事業】

・ワークショップ

「日本刺繍で蝶をつくってみよう！」

講師：桜井 あや 氏（日本刺繍作家）

日時：12月23日（土）13：00～16：00

参加者：9名



【その他関連事業】

共立 Stand Up! プロジェクト

「博物館を楽しもう！」主催

・ワークショップ

<吉祥模様ブックカバーをつくろう！>

平成28年1月11日（水）、12日（木）



5. 教育研究・利用支援

1) 学修支援（授業支援）

平成28(2016)年度

No.	利用日	利用者名(授業名等)	人数
1	2016/10/13	染織品保存修復実習	25
2	2016/10/11	文芸教養演習 I F	14
3	2016/10/11	文芸教養演習 II G	15
4	2016/10/21	博物館展示論	45
5	2016/10/21	博物館実習-01	22
6	2016/10/24	博物館実習-03	11
7	2016/11/5	家政学会服飾史・服飾美学部会	27
8	2016/11/25	世宗大学(韓国)	27
9	2016/11/26	博物館情報・メディア論	41
10	2016/11/28	博物館実習-03	11
11	2016/11/30	博物館実習-02	14
12	2016/12/20	博物館経営論	47
13	2017/1/16	博物館実習-03	12

平成29(2017)年度

No.	利用日	利用者名(授業名等)	人数
1	2017/4/21	博物館実習-01	12
2	2017/4/24	博物館実習-03	10
3	2017/5/15	博物館実習-03	12
4	2017/6/2	染織文化史演習	10
5	2017/7/6	染織文化史	93
6	2017/7/6	東洋服装史	95
7	2017/7/11	被服平面造形学	93
8	2017/7/19	博物館実習-02	12
9	2017/7/24	博物館実習-03	12
10	2017/10/19	染織品保存修復実習	18
11	2017/10/6	博物館展示論	45
12	2017/10/6	博物館実習-01	13
13	2017/10/25	染織品保存科学	19
14	2017/11/21	文芸メディア演習 I E	12
15	2017/11/21	ヨーロッパ文化論	14
16	2018/1/10	博物館情報・メディア論	37
17	2017/12/22	博物館実習-01	12
18	2018/1/19	博物館展示論	45
19	2018/1/15	博物館実習-03	12

(記載は申請順)

2) 博物館実習 平成 29 (2017) 年度

実習人数 33 名

実習日程 7 日 八王子保管庫 2 日 2 グループ (8/4・8/7 8/8・8/9)
 神田博物館 5 日 9 グループ (9/25~9/29・10/2~10/6・10/23~10/27
 10/30~11/3・11/6~11/10・11/13~11/17
 11/27~12/1・12/4~12/8・12/11~12/15)

【八王子キャンパス】

第一日目	午前	オリエンテーション 施設・設備の見学、講義
	午後	資料の保存管理に関する実習① 収蔵庫内の清掃
第二日目	午前	資料の保存管理に関する実習② 資料の清掃・手入れの実務
	午後	資料の保存管理に関する実習③ 資料の清掃・手入れの実務

【神田キャンパス】

第一日目	午前	オリエンテーション 実習のねらい、日程説明、館の概要説明
	午後	施設・設備に関する実習 施設・設備の見学と課題の検討(利用者動線、バックヤード、空調、セキュリティ)
第二日目	午前	展示に関する実習① 展示の課題発見、利用者動向の調査
	午後	展示に関する実習② 展示手法の学修、展示の課題と利用者動向の調査による課題の検討・協議
第三日目	午前	管理業務に関する実習① 受付業務体験、博物館事務等の補助
	午後	管理業務に関する実習② 受付業務体験、博物館実習等の補助
第四日目	午前	資料の取扱いに関する実習① 資料の取扱い、資料の梱包と開梱の実務
	午後	資料の取扱いに関する実習② 資料の観察・計測、調書作成、データ入力等の実務
第五日目	午前	収蔵品の展示に関する実習① 展示計画の作成、展示資料の選定
	午後	収蔵品の展示に関する実習② 作品キャプションの作成、解説パネルの作成、学修成果発表

3) 貸出・特別利用

【資料貸出】

平成28(2016)年度

No.	資料名	貸出先	貸出期間
1	「日本刺繍基礎縫」他 全4点	北区飛鳥山博物館	2016/3/15～5/8
2	「ルイ16世様式椅子」他 全5点	神戸市立博物館	2016/9/17～11/27
3	「マリアノ・フォルチュニー デルフォス」 4点	東京家政大学	2016/10/13～11/17

平成29(2017)年度

No.	資料名	貸出先	貸出期間
1	「昭憲皇太后御大礼服」 1点	横浜美術館	2017/4/15～6/25
2	「濃茶麻地熨斗模様素襖上下」他 全3点	町田市立博物館	2017/9/16～11/5

【特別利用】

平成28(2016)年度

No.	申請者	利用区分	利用資料	利用開始日
1	株式会社 日本ヴォーグ社	画像利用	キルト「ダブル・ナイン・パッチ」 1点	2016/12/5
2	公益財団法人 三徳庵	画像利用	「紅精好地大口」他 全2点	2016/11/18
3	京都女子大学	画像利用	「紅綸子地松笹鶴模様打掛」 1点	2016/12/15
4	大妻女子大学	画像利用	額面「孔雀と梅」他 全2点	2016/11/30
5	横浜美術館	画像利用	「昭憲皇太后御大礼服」 1点	2016/12/7
6	東京家政大学	熟覧・撮影	「マリアノ・フォルチュニー デルフォス」 5点	2017/2/1
7	公益財団法人 三徳庵	画像利用	「紅縮緬地花束青海波模様打掛」 1点	2017/2/20

平成29(2017)年度

No.	申請者	利用区分	利用資料	利用開始日
1	ハースト婦人画報社	画像利用	「紺地中格子模様熨斗目」他 全3点	2017/5/20
2	株式会社 日本ヴォーグ社	画像利用	キルト「ダイヤモンドの星」他 全2点	2017/9/4
3	一般社団法人 櫻友会	画像利用	「マロニエ文花器」 1点	2017/11/20
4	株式会社 CBCテレビ	画像利用	「昭憲皇太后御大礼服」 1点	2017/8/18
5	株式会社 テレビマンユニオン	画像利用	「昭憲皇太后御大礼服」 1点	2018/1/2
6	はたや記念館 ゆめおーれ勝山	画像利用	「マリアノ・フォルチュニー デルフォス」 1点	2018/1/21

(記載は申請順)

6. 資料管理

【燻蒸処理】

- ・八王子キャンパス 10 号館保管庫等 (平成 28 年 6 月 30 日～7 月 4 日 計 4 日間)

【害虫防除】

- ・神田一ツ橋キャンパス 2 号館博物館 (平成 28 年 9 月 3 日～9 月 4 日 計 2 日間)

【環境調査】

- ・八王子キャンパス 10 号館保管庫等 (平成 29 年 5 月 16 日～ 6 月 16 日 前期 1 ヶ月間)
(平成 29 年 10 月 26 日～11 月 27 日 後期 1 ヶ月間)
- ・神田一ツ橋キャンパス 2 号館博物館 (平成 29 年 5 月 16 日～ 6 月 16 日 前期 1 ヶ月間)
(平成 29 年 10 月 26 日～11 月 27 日 後期 1 ヶ月間)

7. 調査研究

- ・西洋服飾資料の調査 (平成 29 年 1 月 24 日、26 日、27 日 計 3 日間)
黒川 祐子 氏 (共立女子大学非常勤講師)
- ・共立関係資料の調査 (平成 29 年 11 月 7 日、14 日 計 2 日間)
中川 麻子 氏 (大妻女子大学准教授)

8. 運営・組織

1) 博物館規程類

共立女子大学博物館規程

(趣旨)

第1条 この規程は、共立女子大学博物館（以下「博物館」という。）に関する基本事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 博物館は、本学における教育研究等の使命を達成するため、必要な学術資料および関連資料（以下「資料」という。）の収集、管理、展示等を行い、教職員、学生およびその他一般の利用に供することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、その目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 資料の収集、管理および調査研究
- (2) 展覧会、講演会等の開催
- (3) 学内外の教育研究および利用に関する支援
- (4) 出版広報活動
- (5) その他博物館の目的達成のために必要な事業

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、教授のうちから学長が推薦し、理事長が任命する。
- 3 館長は、館務を掌理する。
- 4 館長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、任期中に退任した場合の後任者の任期は、その残任期間とする。

(運営委員会)

第5条 博物館運営の基本事項に関して館長の諮問に応じるため、博物館運営委員会を置く。

- 2 博物館運営委員会の規程は、別に定める。

(職員)

第6条 博物館に職員を置く。

- 2 職員のうち1名は、学芸員資格とそれに基づく実務経験を有する者とする。
- 3 職員について必要な事項は、共立女子学園事務局事務規程をもって別に定める。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、博物館の運営に必要な事項については別に定める。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、館長の提議により常務理事会の承認を得るものとする。

附則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

共立女子大学博物館運営委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、共立女子大学博物館規程の第5条第2項に基づき、共立女子大学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(組織)

第2条 委員会は、次の運営委員（以下「委員」という。）をもって組織する。

- (1) 館長
 - (2) 学部・科より推薦された専任の教員 各1名
 - (3) 館長が必要に応じて推薦した専任の教員 2名以内
 - (4) 図書課統括課長
- 2 委員は、学長が任命する。

(任期)

第3条 委員の任期は、2年とし再任を妨げない。ただし、委員の欠員により補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、館長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長は、必要に応じ、委員以外の者に会議への出席を求めることができる。

(会議)

第5条 委員会は、原則として年2回以上開催するものとする。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席により成立する。

(議事の報告)

第6条 館長は、協議された事項について学長に報告する。

(事務)

第7条 委員会の事務は、図書課が担当する。

(改廃)

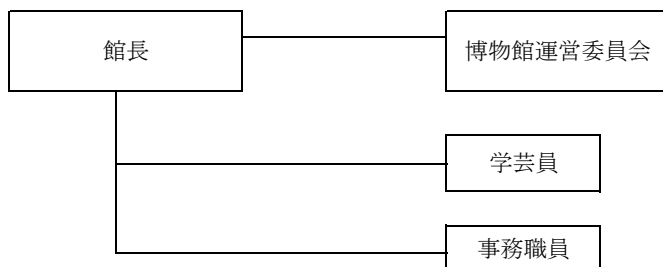
第8条 この規程の改廃は、館長の提議により、常務理事会の承認を得るものとする。

附則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

2) 委員会等・組織図

【組織図】



【博物館運営委員】

(任期 2年：平成28年4月1日～平成30年3月31日)

委員長	博物館長	教授	長崎 巖
委員	家政学部	教授	田中 淑江
委員	文芸学部	教授	山本 聡美
委員	国際学部	教授	木戸 雅子
委員	看護学部	専任講師	山住 康恵
委員	生活科学科	教授	渡辺 明日香
委員	文科	教授	前之園 亮一
委員	図書課	統括課長	田中 俊介

3) 施設概要

室名		
展示室	(展示室)	48㎡
	(展示ケース)	31㎡
エントランス		13㎡
事務室		43㎡
事務室通路		
収蔵庫		36㎡
収蔵庫前室		35㎡
HCWC		6㎡
空調機械室		58㎡

博物館エリア 合計面積 270㎡

竣工 平成 28 年 10 月 1 日

設計 株式会社 山下設計

施工 鹿島建設 株式会社

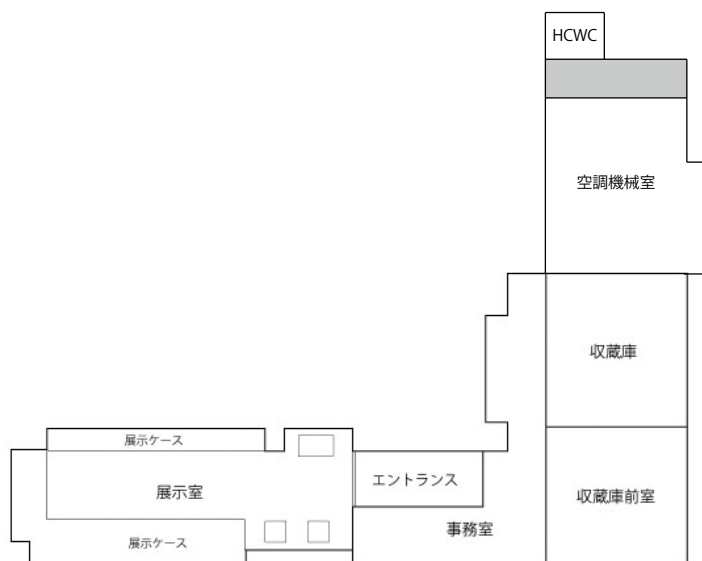
株式会社 関電工

三建設備工業 株式会社

(建築工事)

(電気設備工事)

(空調・衛生設備工事)



4) 利用案内

開館時間：月～金曜日 9：30～16：30

休館日：土曜日・日曜日・国民の祝日、本学が定める休日、展示入替期間

※企画展開催中は土曜日も開館（9：30～12：00）します。

休館日、開館時間に変更になる場合があります。

詳しくは、当館のウェブサイトをご覧ください。

入館料：無料

※どなたでもご観覧いただけます。2号館1F受付でお申し込みください。

交通：東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線「神保町」駅下車
A8出口徒歩1分

東京メトロ東西線「竹橋」駅下車1b出口徒歩3分

※駐車場はございませんので公共交通機関をご利用ください。

所在地：〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-1 共立女子学園2号館B1F

Tel：03-3237-2665

Fax：03-3237-2633

HP：<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/muse/>

mail：muse.gr@kyoritsu-wu.ac.jp

